10月25日㈮　神奈川県平塚市

▼ワークステーションひらつか「夢のタネ」障がい者ワークステーション事業について

ワークステーション「夢のタネ」は、障がい者スタッフが支援員の指導のもとで市役所の軽易な事務作業を行う場所として、平成27年2月に市庁舎内に設置された。

市役所各課は、軽易な作業を「夢のタネ」に依頼するシステムである。市としては、各課の職員が政策形成事務などの高度な仕事に集中することで、市役所全体の業務効率化を図ることができ、障がい者スタッフにとっては、市役所で働くことで仕事のスキルや社会性を身につけ、一般就労へのステップアップにつながる。これは、「障がいのある人もない人も、ともにいきいきと生活するまちづくり(平塚市障がい者福祉計画)」の実現にも寄与するものである。

平成28年4月から平成29年3月までの業務依頼数は、622件で、市役所全78課のうち49課から依頼を受けることができた。各課の依頼は年々増えており、現在は、学校に「夢のタネ」のスタッフを派遣し、教職員の負担軽減を図るための業務も始めている。

平塚市は、この事業について、福祉の側面と事業者としての側面を合わせ持つ「夢」のような取り組みであり、まだ一粒の「タネ」をまいたにすぎないが、可能性は未知数で、今後も発展していくとしている。

文教経済常任委員会

10月31日㈭　茨城県水戸市

▼学力向上推進事業「チャレンジプラン」について

水戸市では、次世代をリードする人材の育成を目指し、水戸の先人の教えを基に、確かな学力の定着や郷土を愛し社会に貢献しようとする心の育成を図る取り組み等を先進的に進めるため、水戸スタイルの教育関連事業として、4つのプランを推進しており、「チャレンジプラン」は、その一つである。

「チャレンジプラン」では、まず、市内共通実践項目である「規律と協働を高める八策」を実践している。これは、市内全ての小・中学校が同じ学習実践をすることで、学校間の学力格差をなくすことをねらいとしている。実践項目は共通とするが、内容については各学校で工夫をして取り組んでいる。このほか、個人に応じた学習指導に資するために、非常勤講師である学力向上サポーターの活用や「学びの広場ネクストステージ」、ボランティアによる「放課後学力サポート事業」、「数学・学習相談(SPOT IN MITO)」といった学力向上のための事業を行うことで、希望者に対する学習支援の充実を図っている。さらに、各学校区が連携・協働して学力向上対策を行うための一助として、小学校6年生と中学校2年生を対象とする学習定着状況調査の実施や小学校4年生を対象とする家庭学習スタートノートの配布を行うとともに、教員による家庭学習に関する指導資料集の活用を実施することにより、家庭での学習習慣の定着を図っている。

11月1日㈮　茨城県行方市

▼廃校の有効活用のための企業誘致活動について

行方市では、少子高齢化の進展による児童生徒の減少によって、学校経営等が困難にならないよう、平成20年に効率的な教育環境整備を推進する「行方市学校等適正配置計画」を、平成21年に「行方市学校等適正配置実施計画」を策定し、小・中学校や幼稚園の統廃合を進めてきた。学校を統廃合することにより、教育環境の向上、安全安心な施設環境の整備、小中一貫(連携)教育の推進ができたが、経費や跡地の利活用が課題となったため、平成26年には「行方市立小・中学校跡地等利活用実施計画」を策定し、この課題の解決に取り組んでいる。

行方市は日本有数のサツマイモの産地で、茨城県の支援もあり、JAなめがた、白ハトグループ、農業者の出資による農業生産法人株式会社なめがたしろはとファームが設立され、市は、同社に小学校跡地を譲渡し、平成27年10月には、サツマイモをテーマとする体験型農業テーマパーク「なめがたファーマーズヴィレッジ」を誘致した。ここは、旬の野菜が並ぶマルシェ、農業・手作り体験教室、レストラン、カフェなどが一同に集結した施設であり、中でも、工場見学ができるミュージアムでは旧教室を再利用し、学校の面影を残すことで、地元の思いにも対応している。新規雇用者200人のうち150人を地元で採用し、雇用の創出にも貢献している。また、旅行会社のツアーが設定され、年間27万人超の来場者が訪れる観光スポットにもなっている。